

沖縄県における 薬剤耐性菌サーベイランス

Streptococcus pneumoniae

中頭病院 臨床検査部
金城正樹、知花淳梨

集計方法

- 集計期間 2015年1月～2015年12月
- 集計条件 西暦ごとに患者重複を除き1患者1株とした。
2014年からは患者重複の場合、
無菌的材料由来株をカウントした。
- 耐性菌条件：以下のように分類(CLSI M100-S22で判定)

	PCG(非髄液由来株)	PCG(髄液由来株)
PSSP	≤ 2	≤ 0.06
PISP	4	—
PRSP	≥ 8	≥ 0.12

解析項目

1.耐性菌分離率

-年別、地域別、材料別、年齢別、入院・外来別

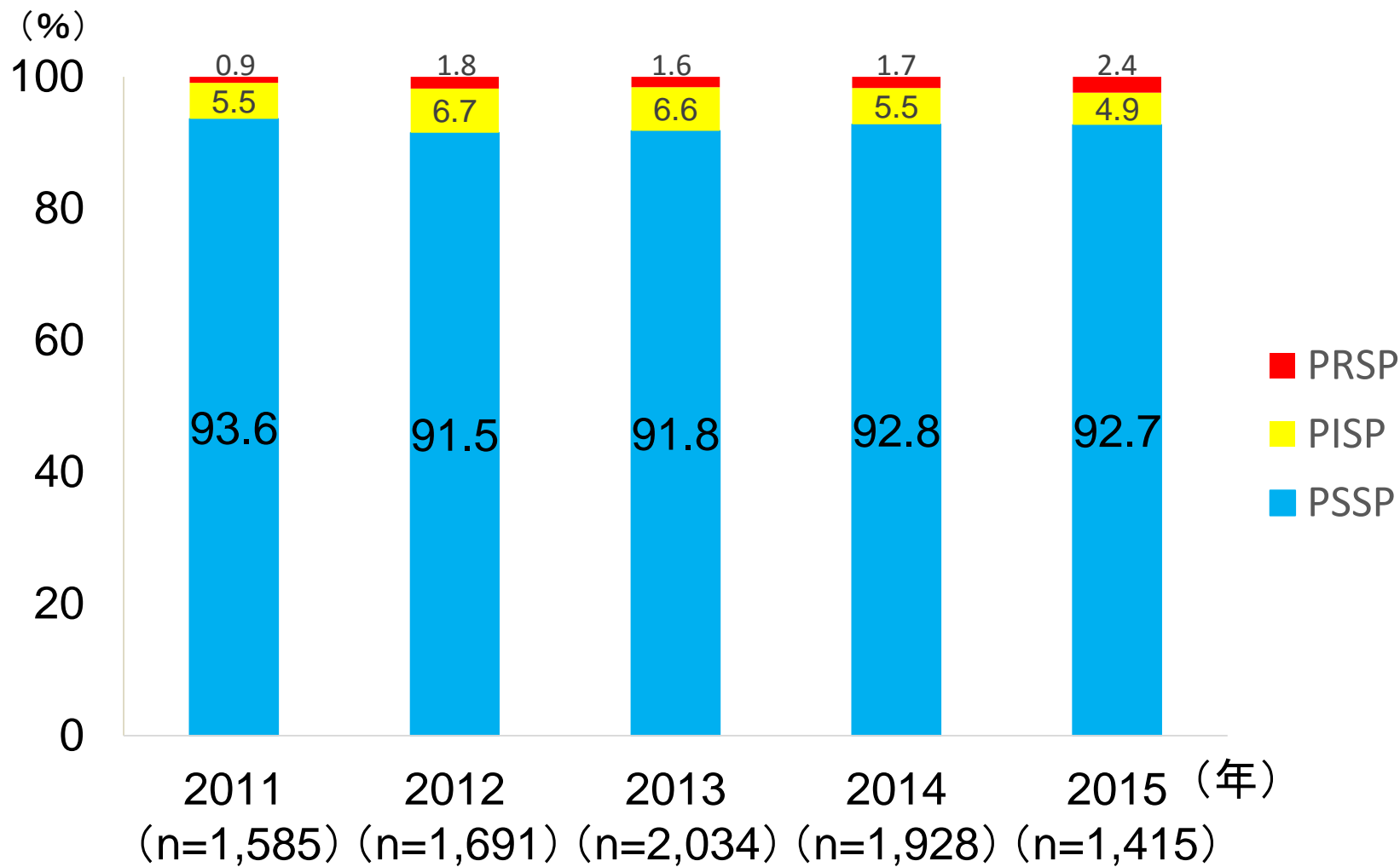
2.薬剤耐性分離率

-対象薬剤

(PCG、CCL、CTX、CTRX、CFPM、IPM、MEPM、EM、AZM、LVFX、MINO、VCM)

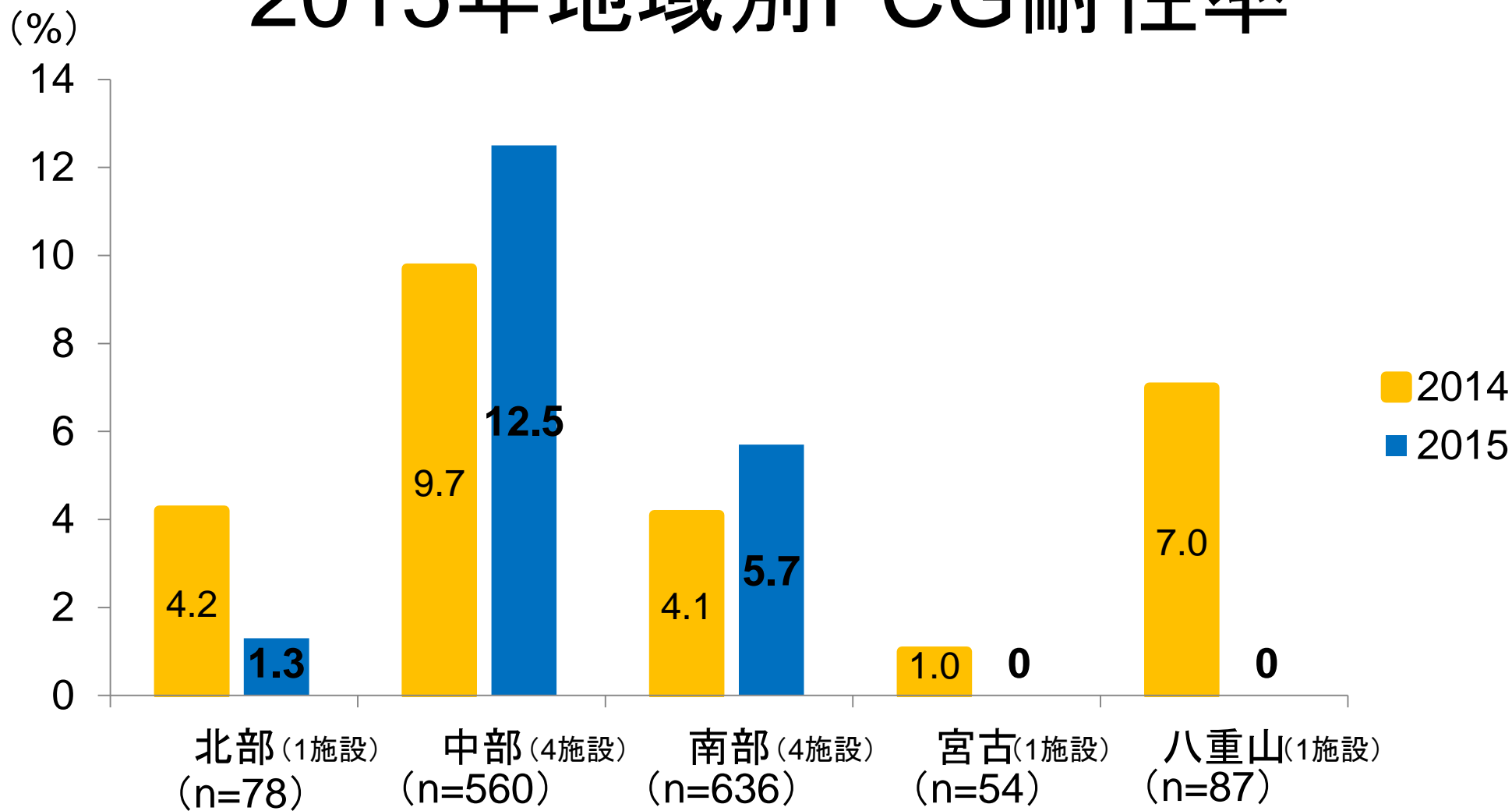
3.髄液・血液由来株について

年別PSSP、PISP、PRSP分離率

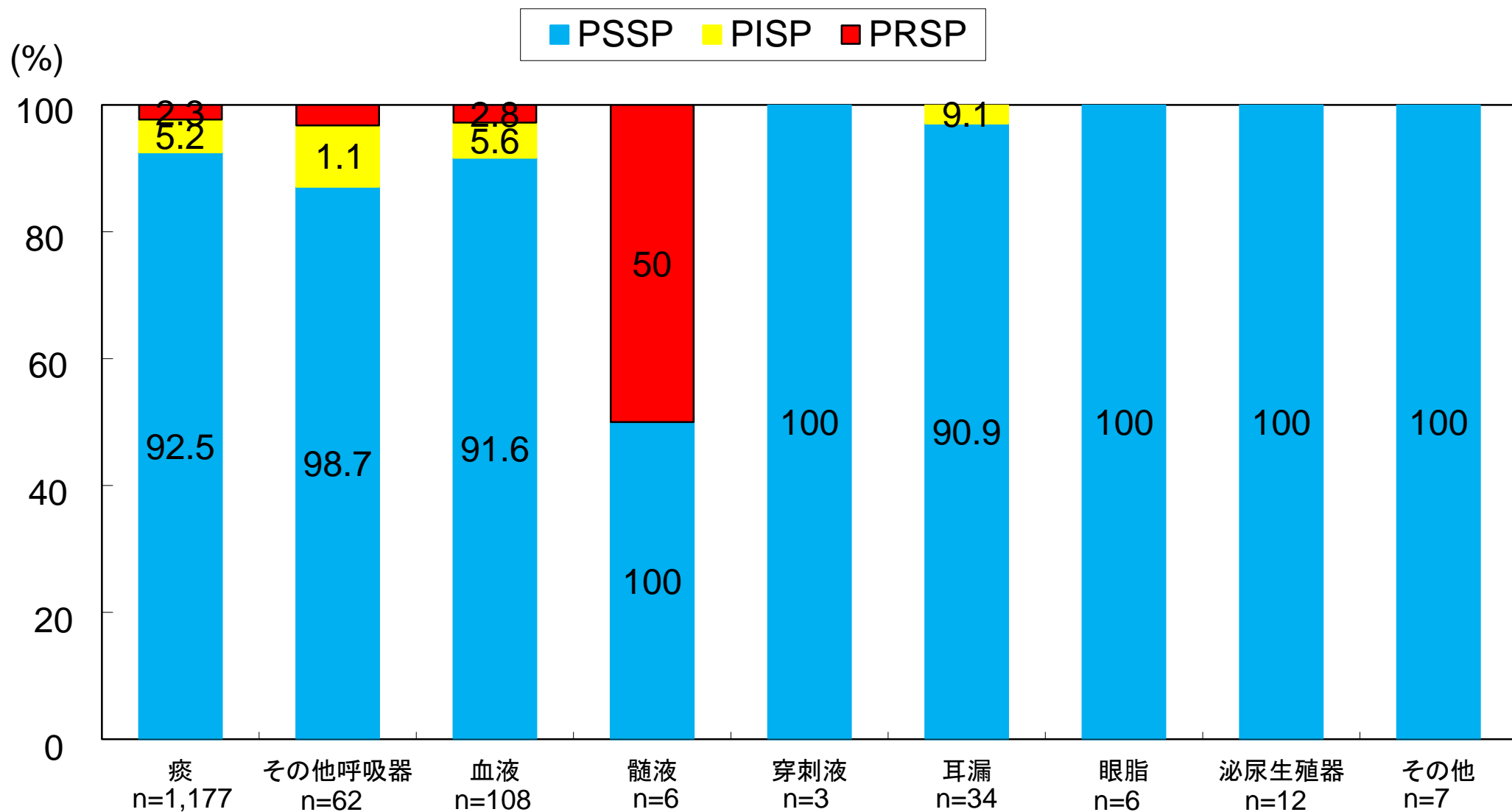


JANIS(2015年1月~9月)髄液以外PSSP(97.0%)、髄液PSSP(60.2%)

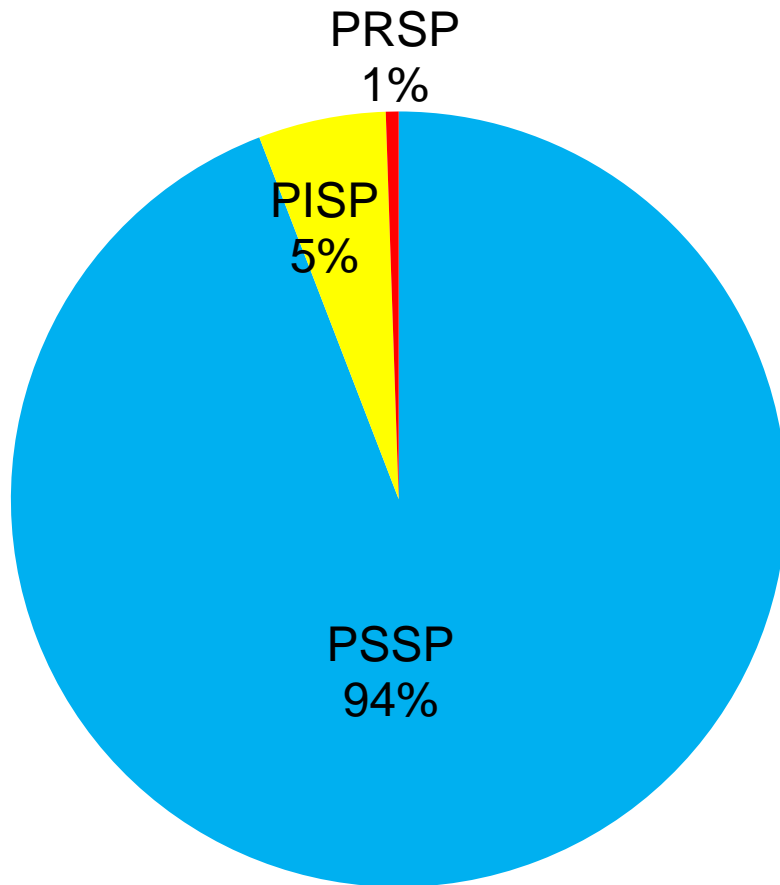
2015年地域別PCG耐性率



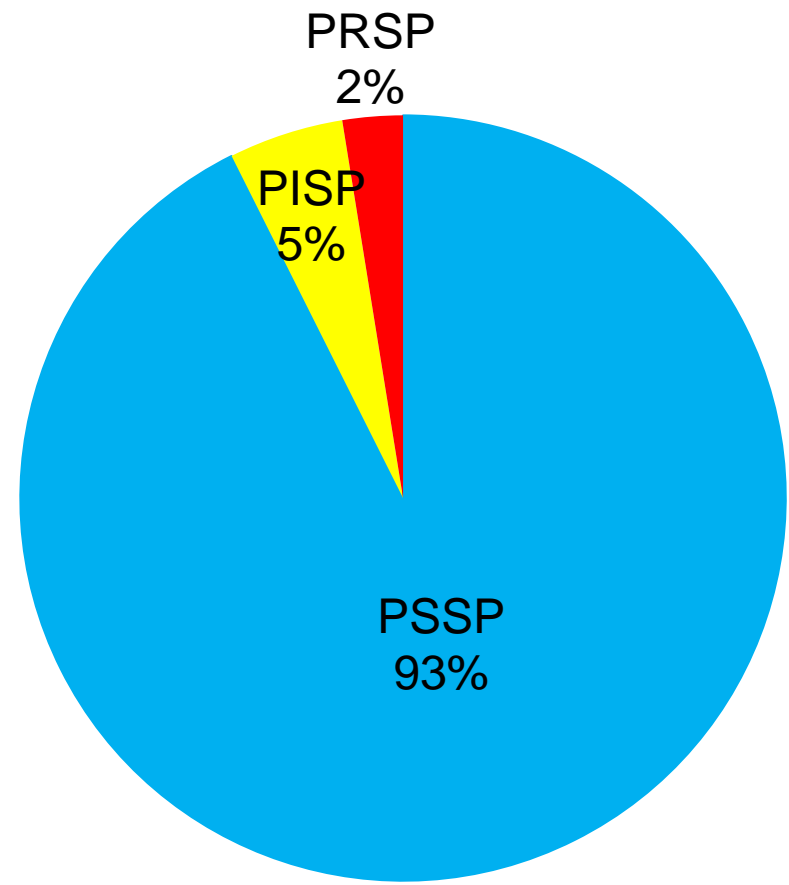
2015年材料別分離状況



2015年 年齡別分離菌割合

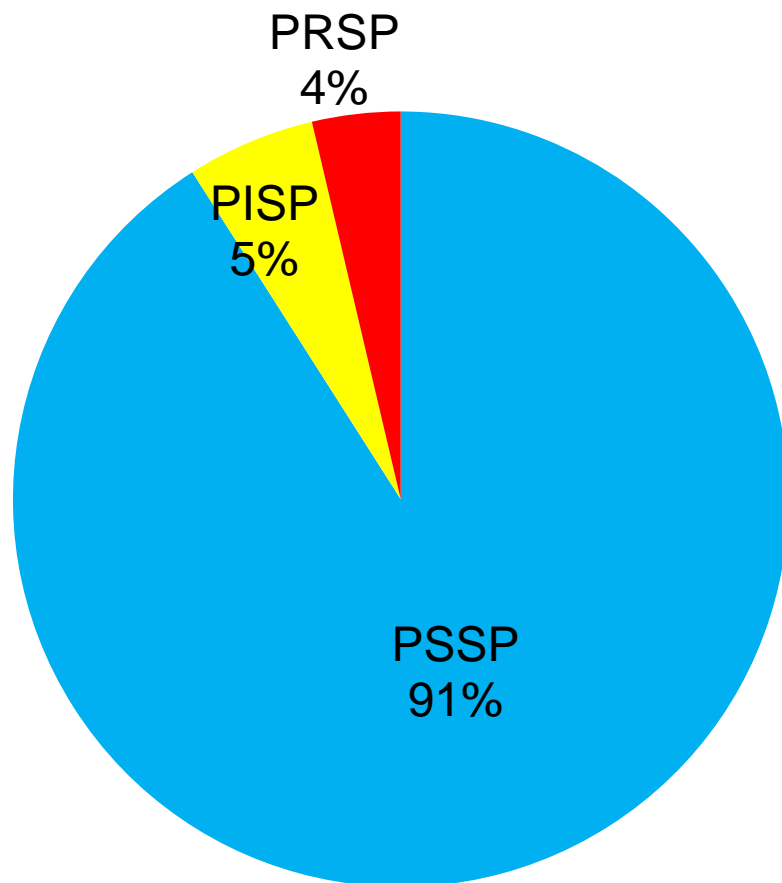


小児(0~15歳) n=187

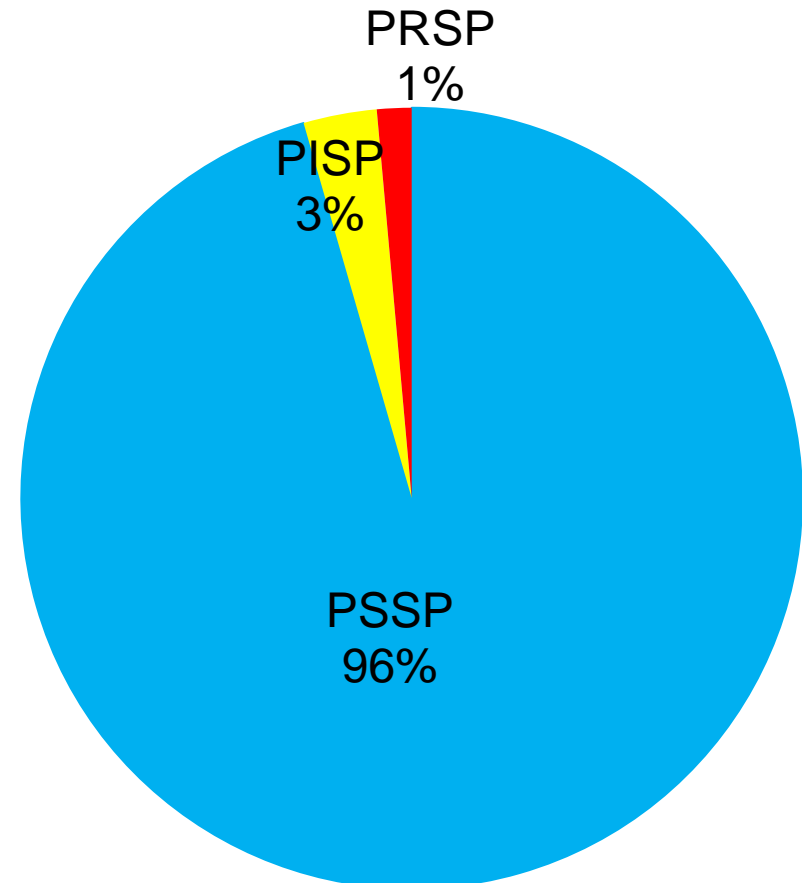


成人(16歳以上) n=1,228

2015年 入院外来別分離菌割合



入院 n=296

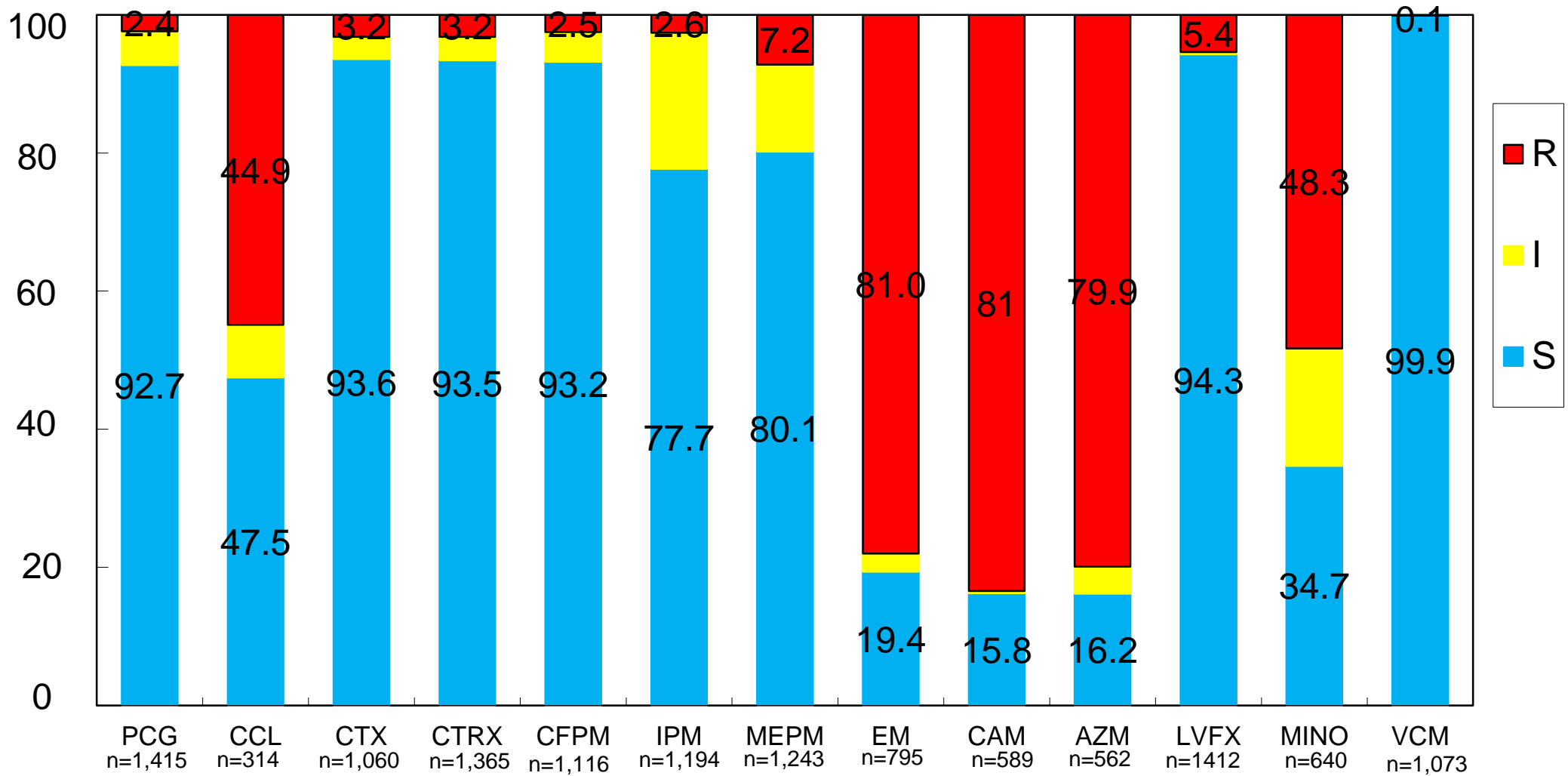


外来 n=1119

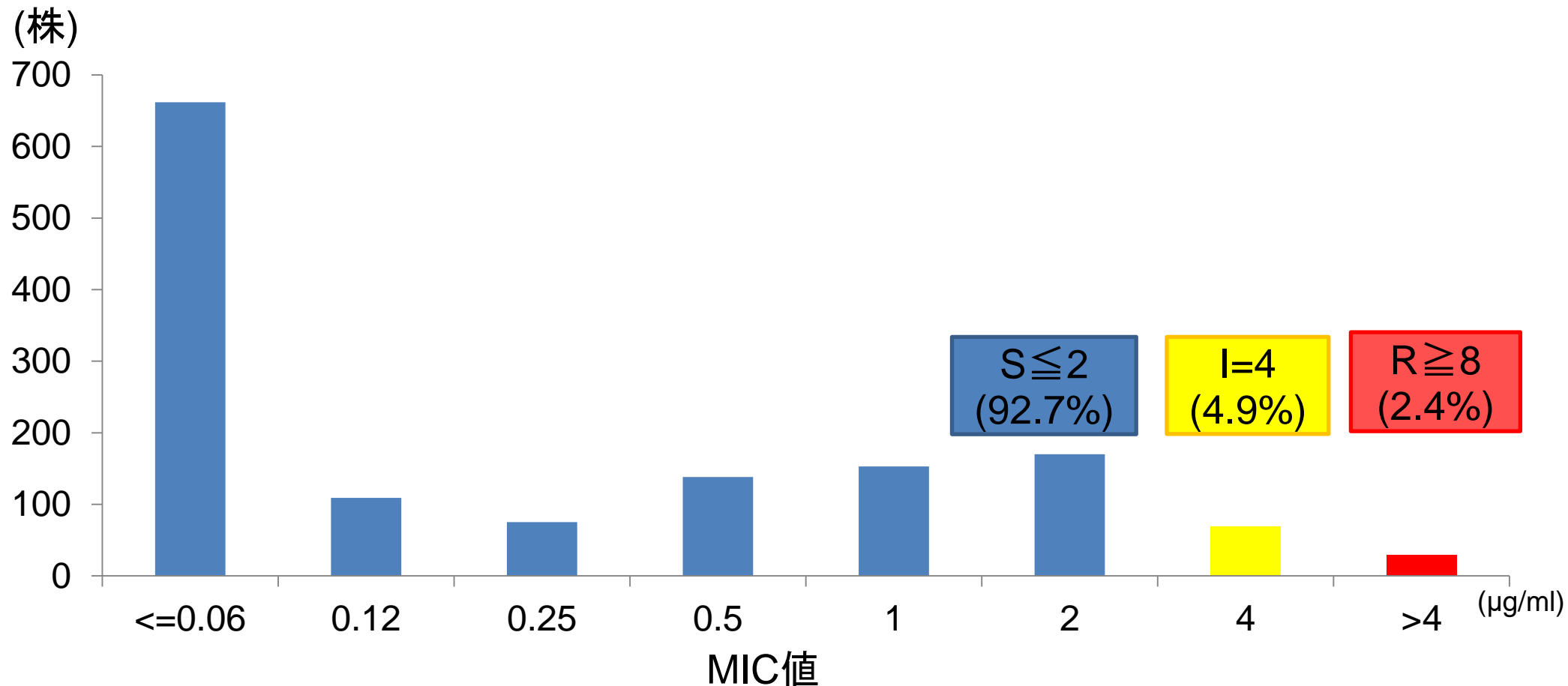
各抗菌薬の感受性率

2015年アンチバイオグラム

(%)



2015年PCGGのMIC値分布(髄液除く)



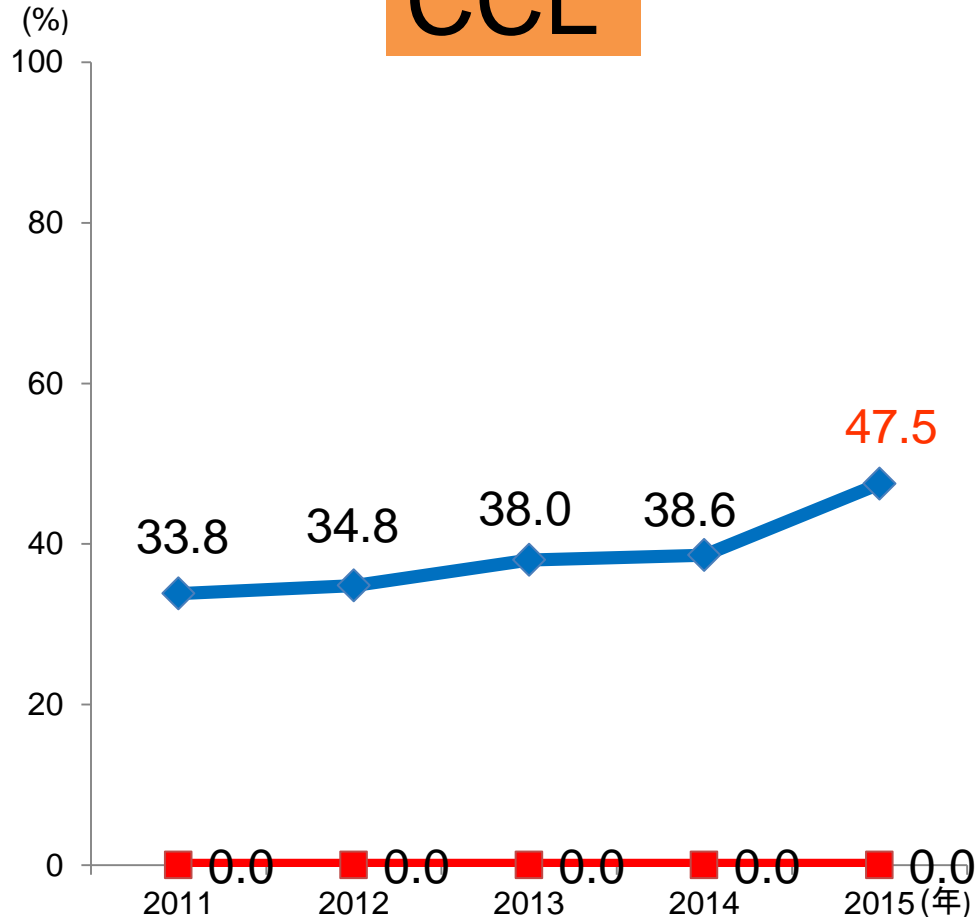
(JANIS 2015年1月~9月、髄液検体以外)

S:97.0%, I:2.3%, R:0.7%

n=25,538

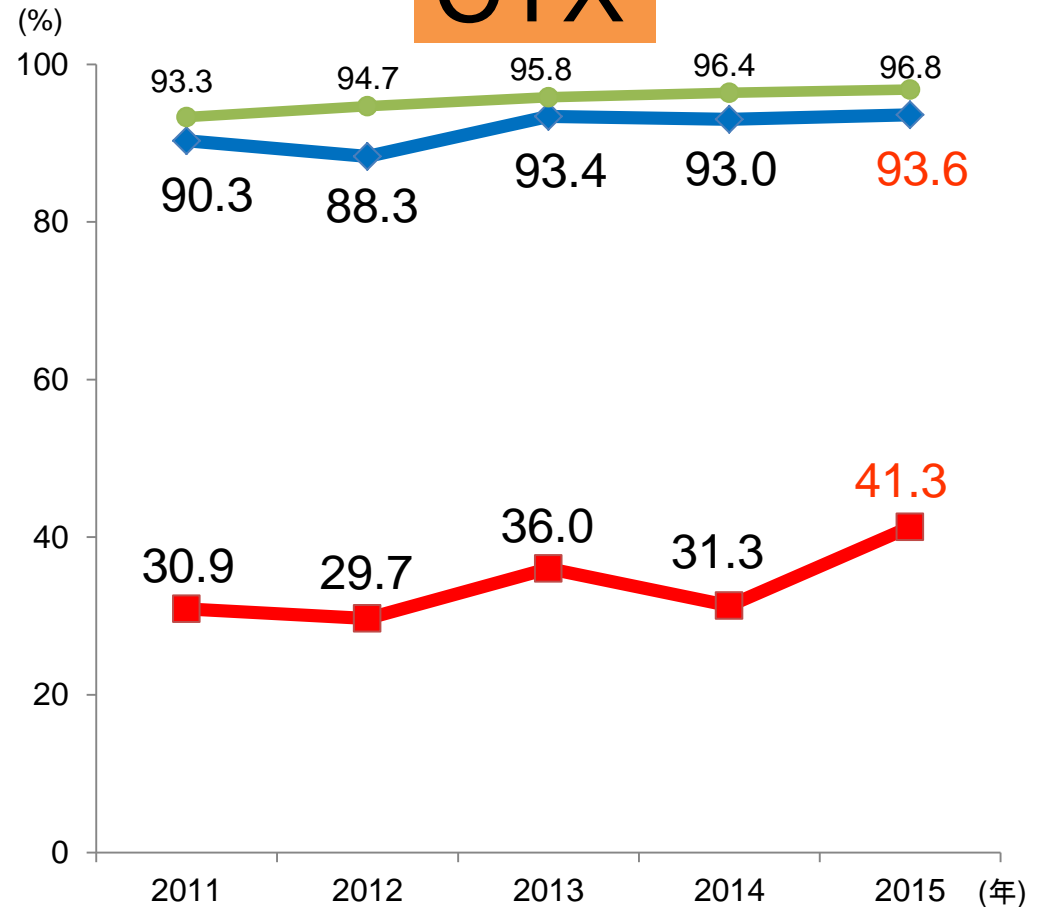
各薬剤における感受性率の年次推移

CCL



◆ *S. pneumoniae* 全株 n=314
■ PISP、PRSP n=4

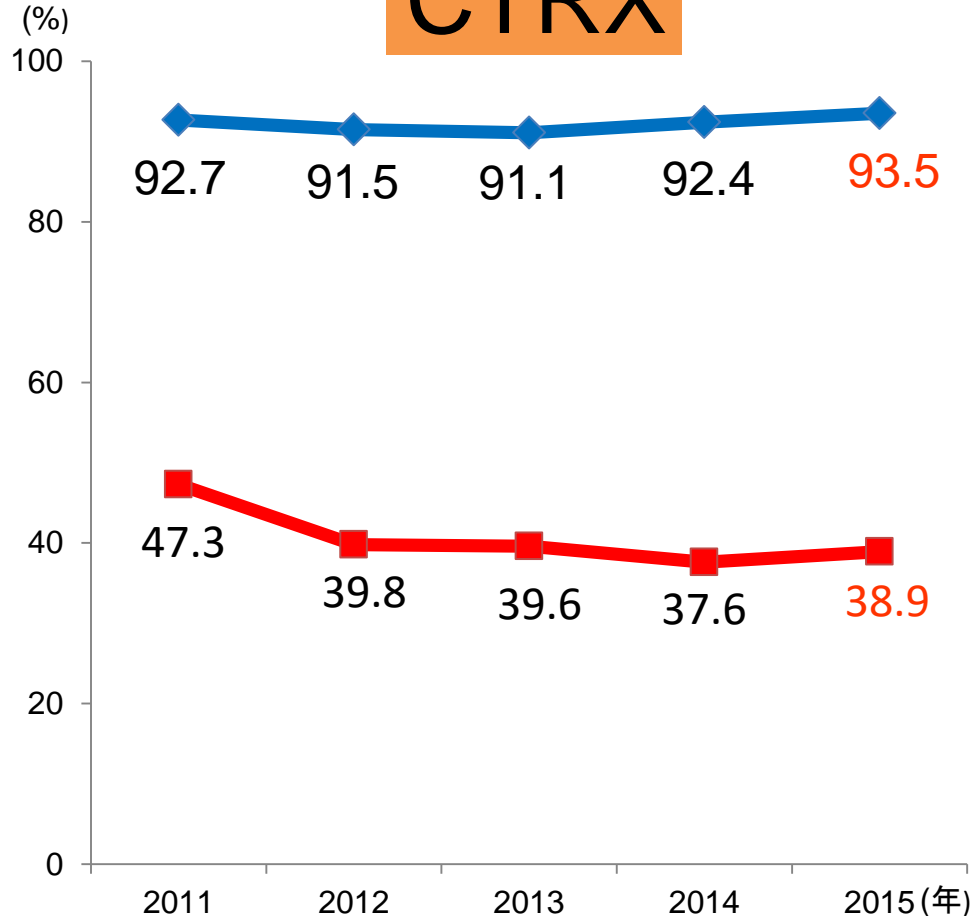
CTX



◆ *S. pneumoniae* 全株 n=1,060
■ PISP、PRSP n=75
● JANIS報告 n=21,516

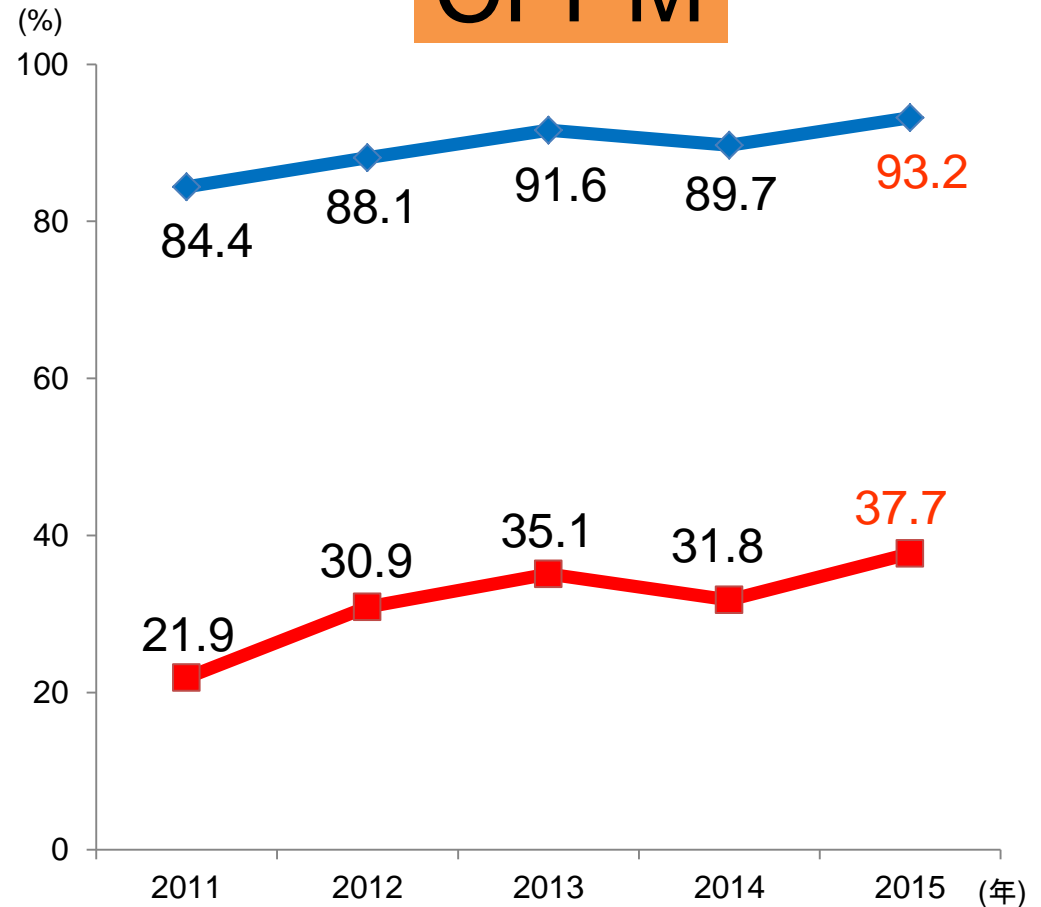
各薬剤における感受性率の年次推移

CTRX



◆ S. pneumoniae 全株 n=1,365
■ PISP、PRSP n=96

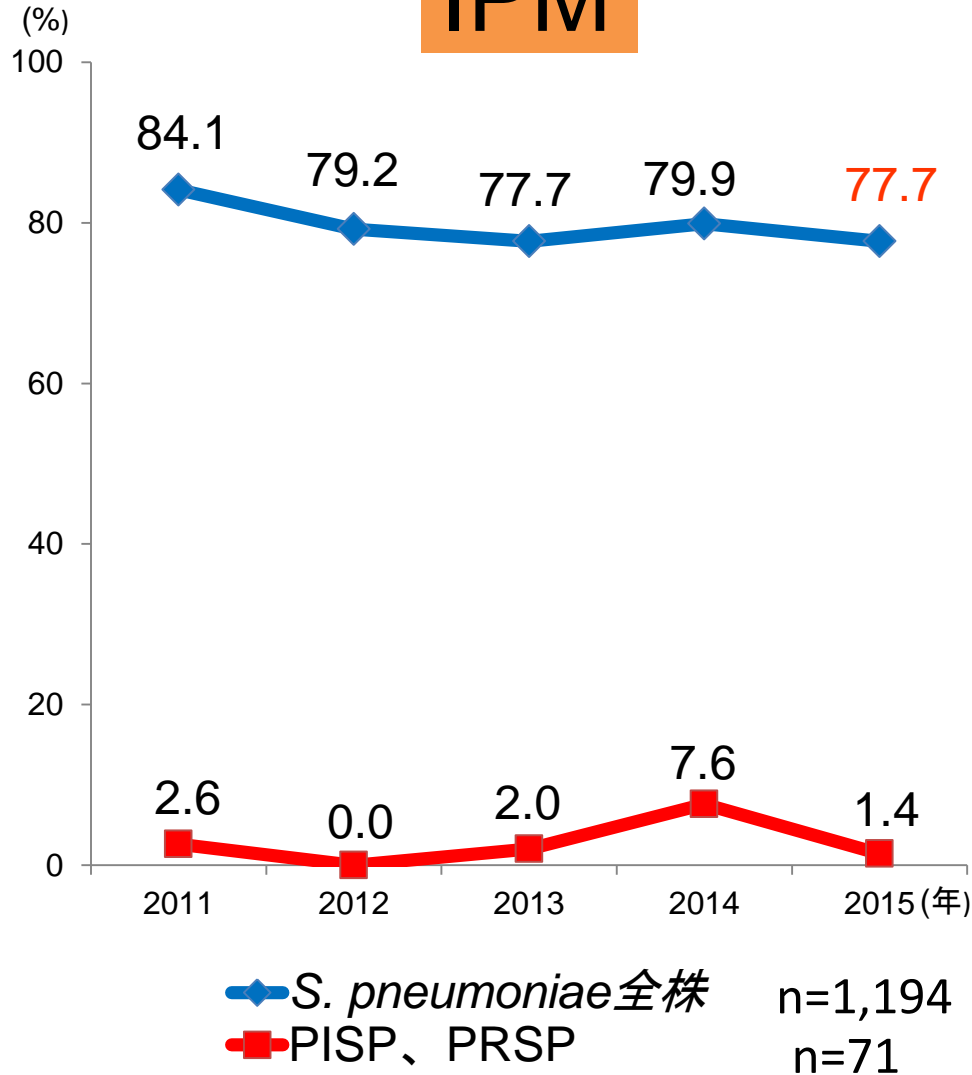
CFPM



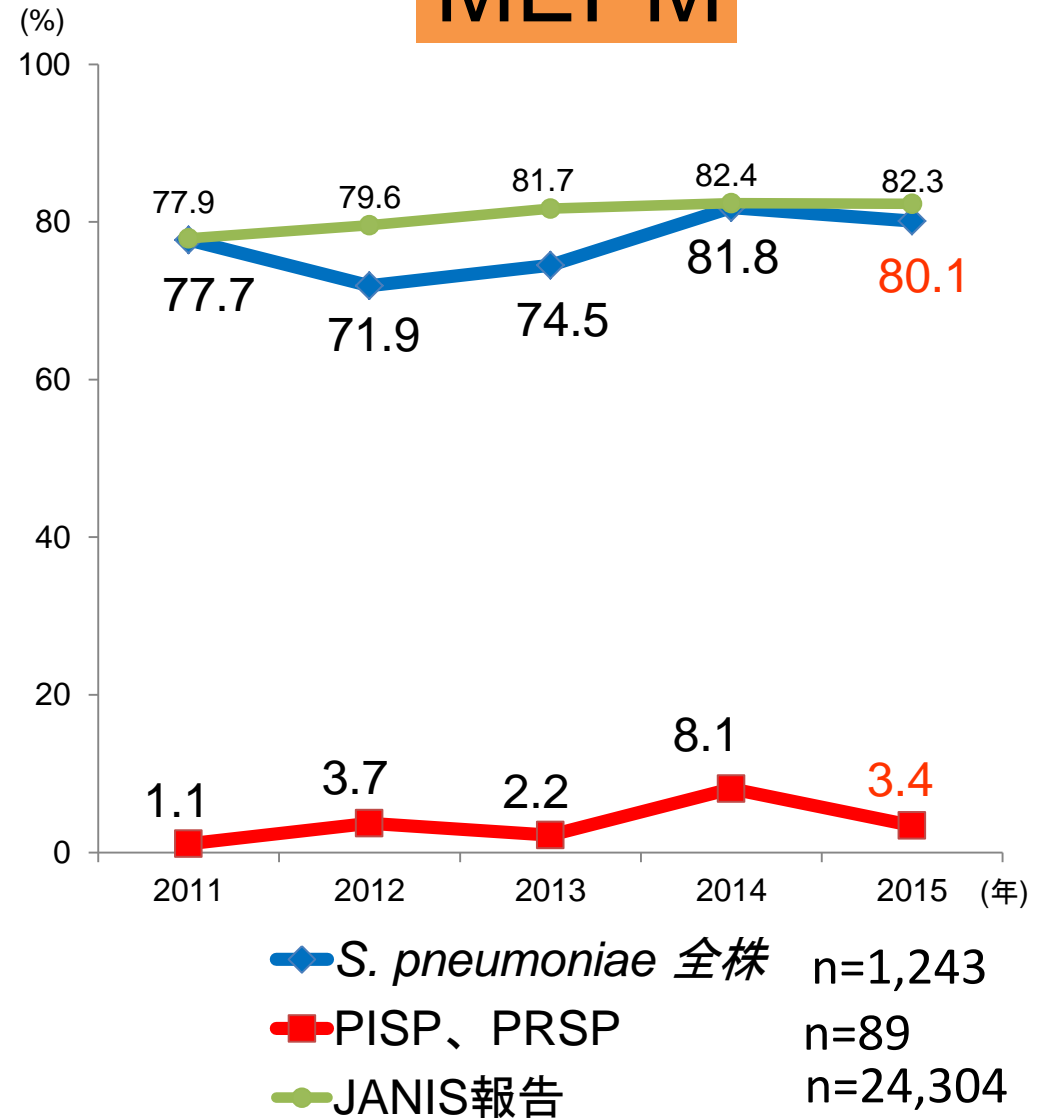
◆ S. pneumoniae 全株 n=1,116
■ PISP、PRSP n=77

各薬剤における感受性率の年次推移

IPM

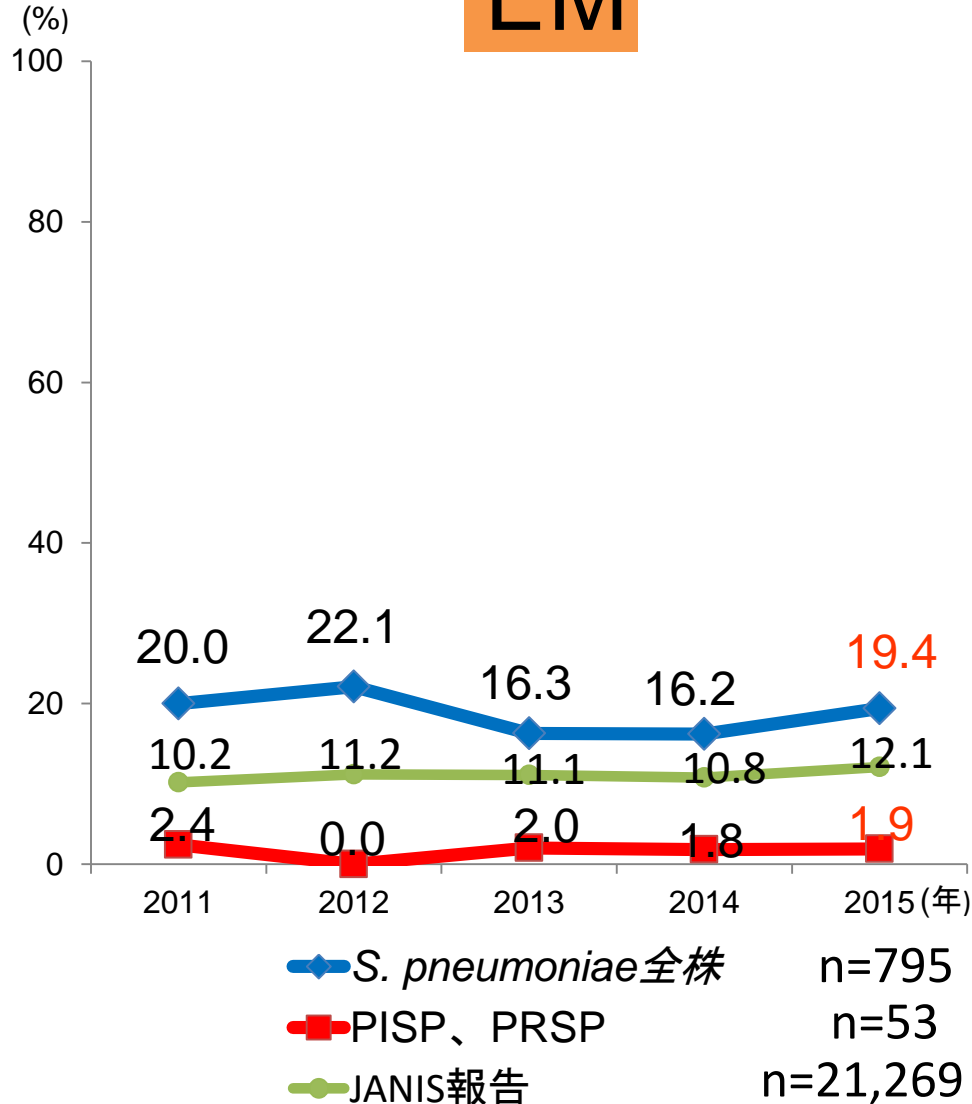


MEPM

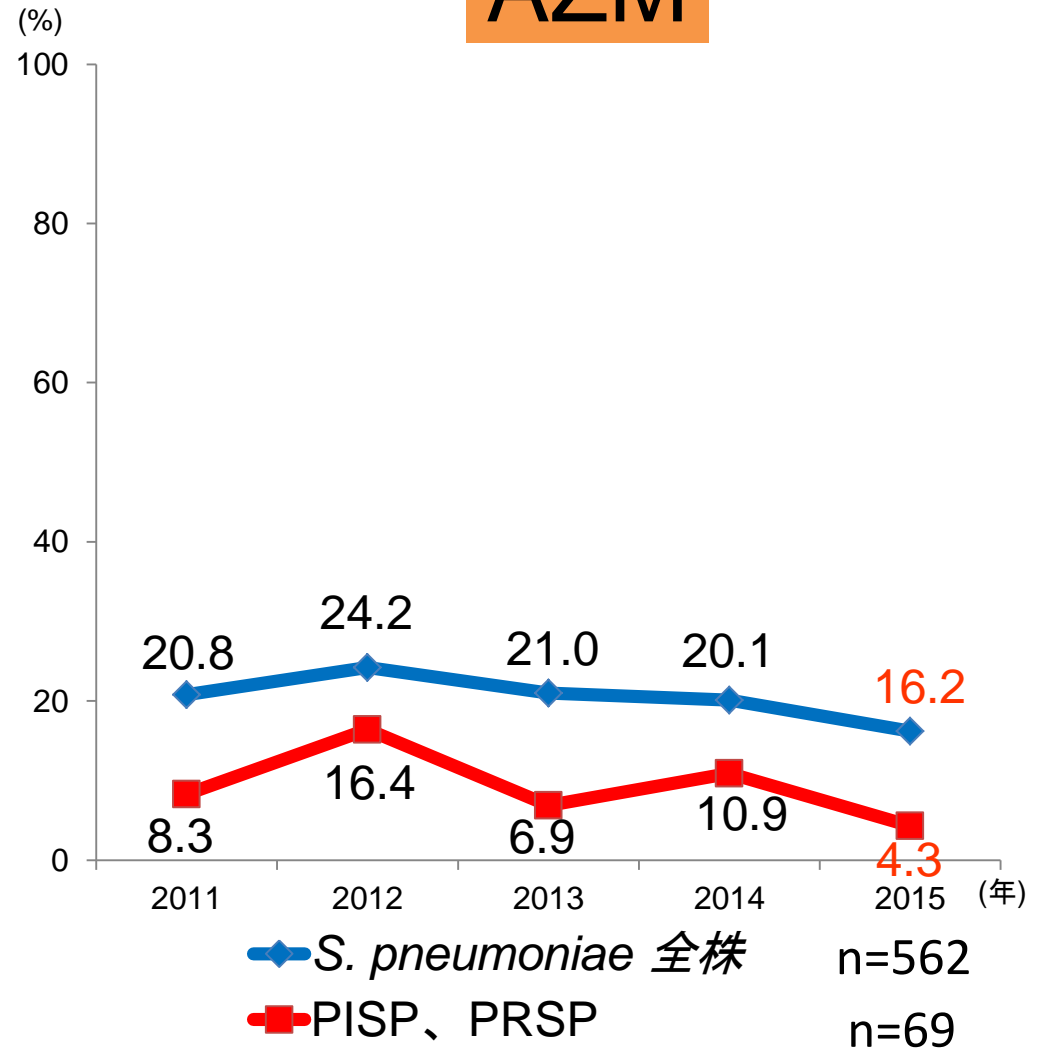


各薬剤における感受性率の年次推移

EM

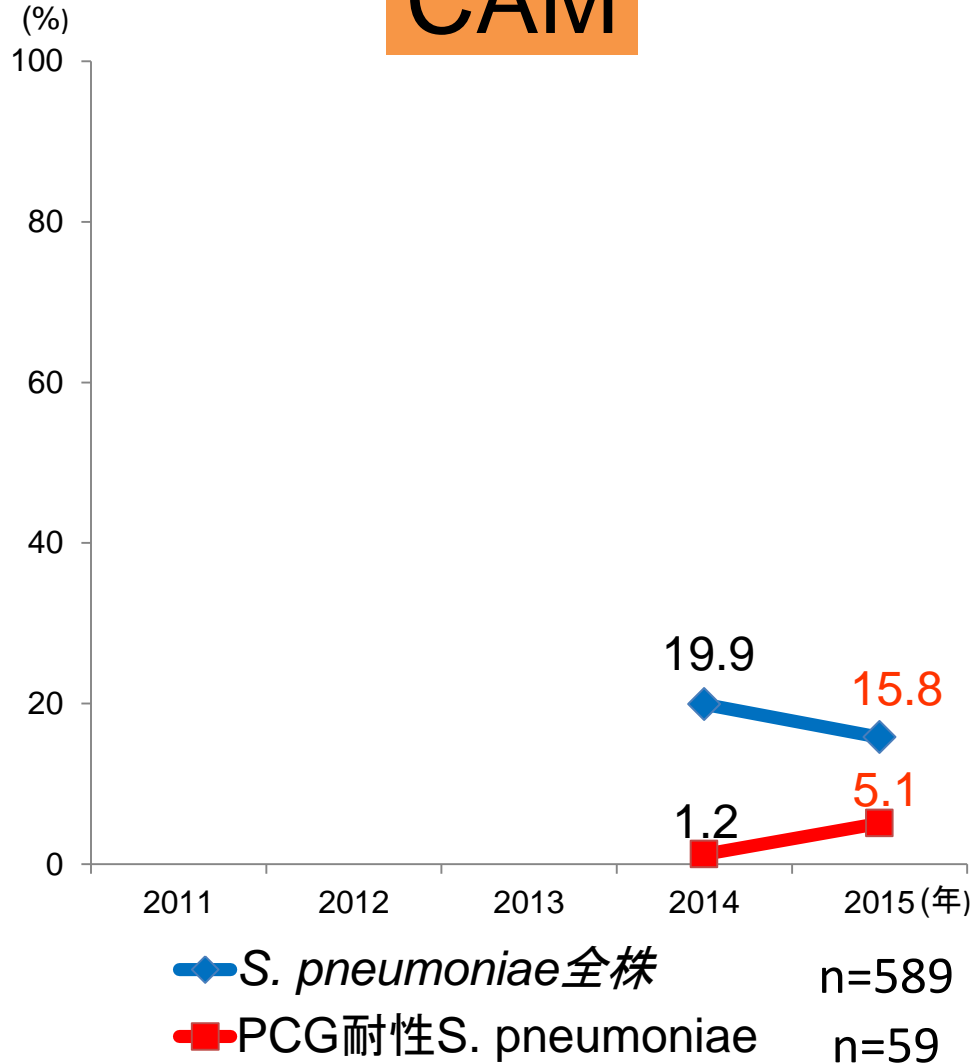


AZM

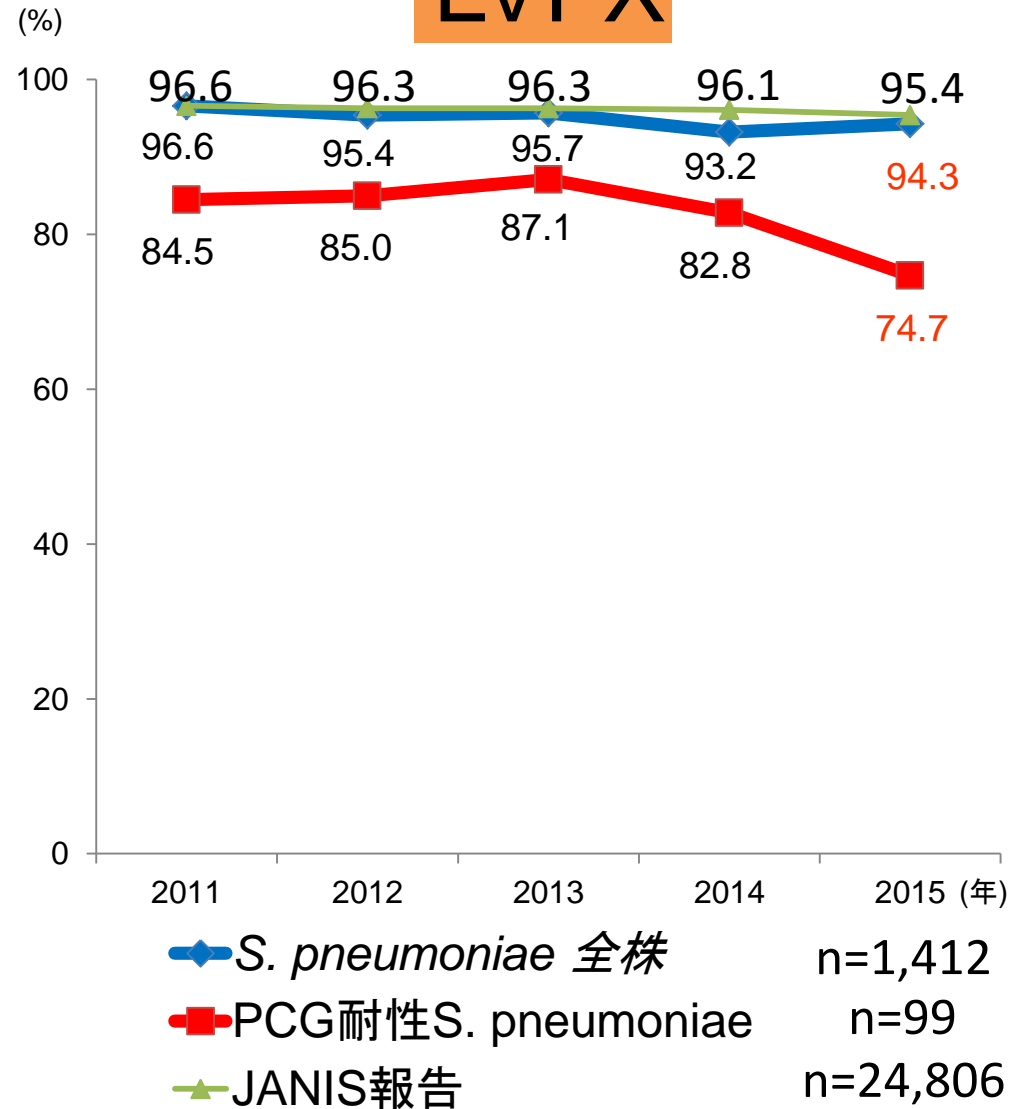


各薬剤における感受性率の年次推移

CAM

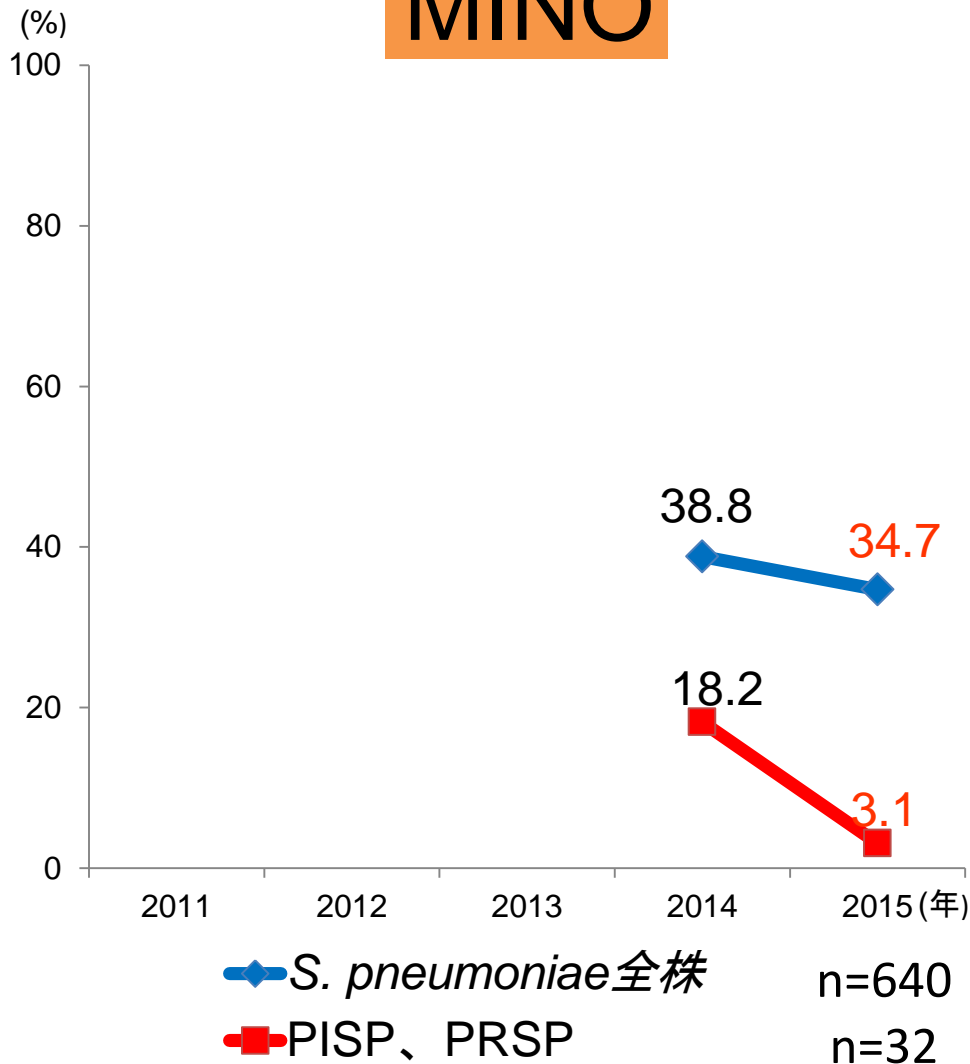


LVFX

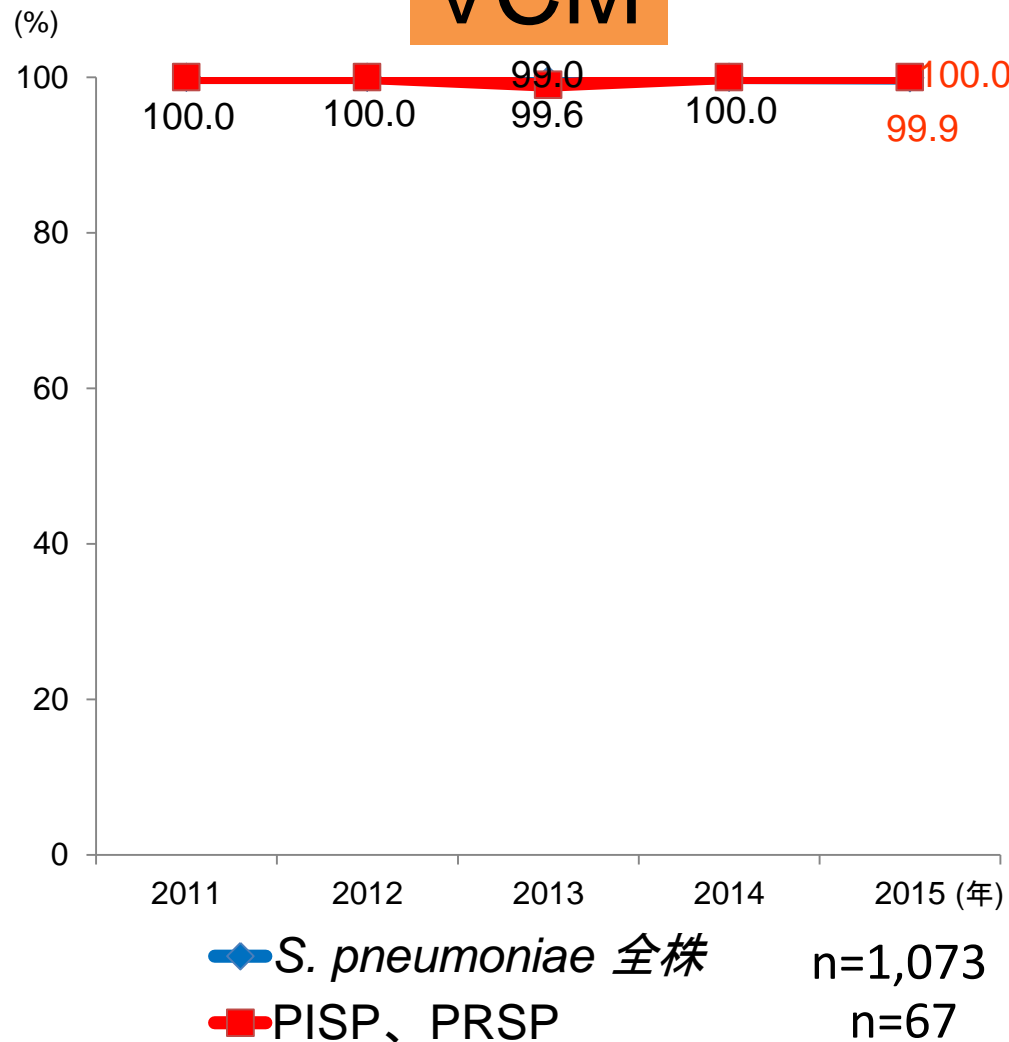


各薬剤における感受性率の年次推移

MINO

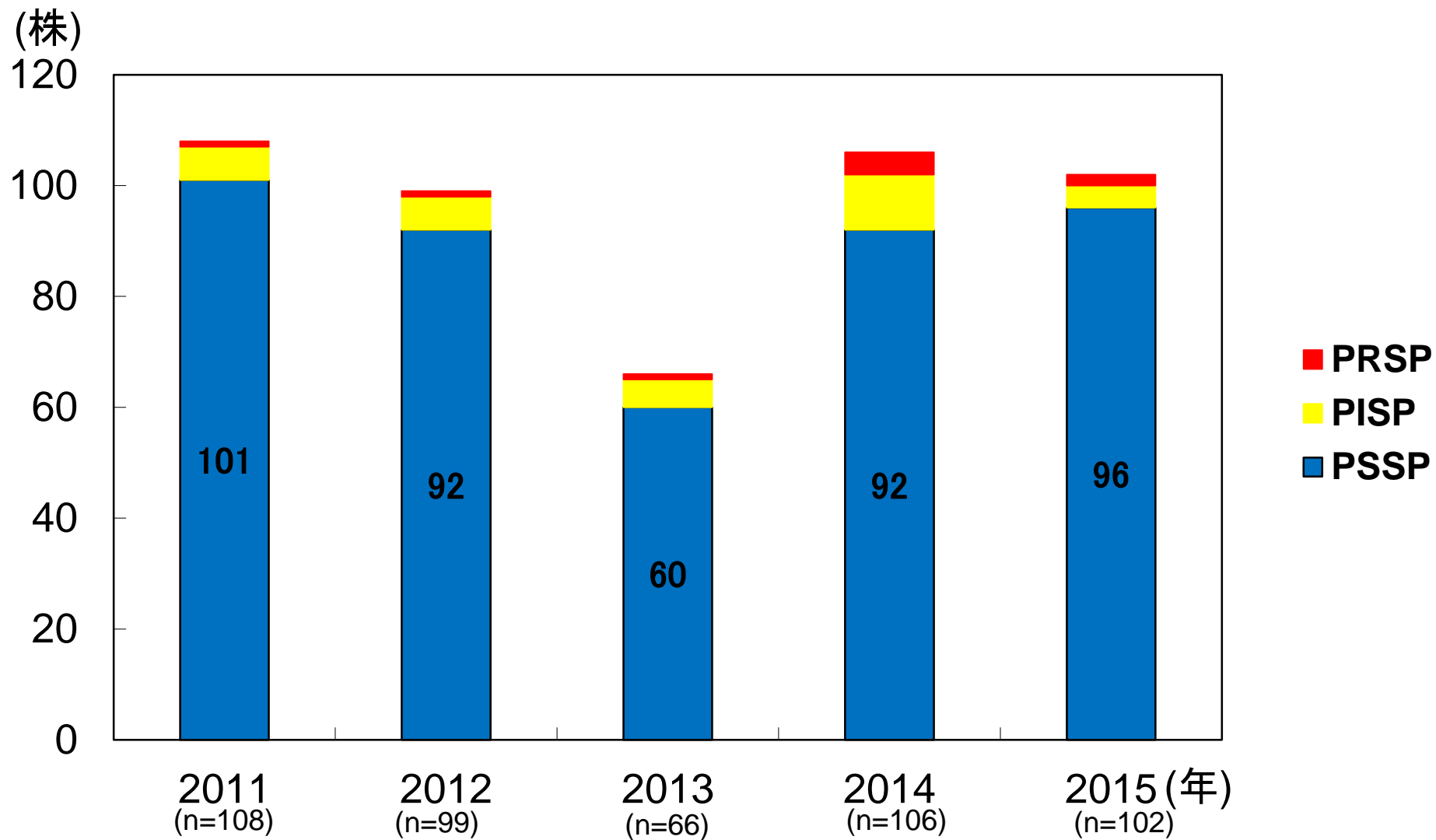


VCM



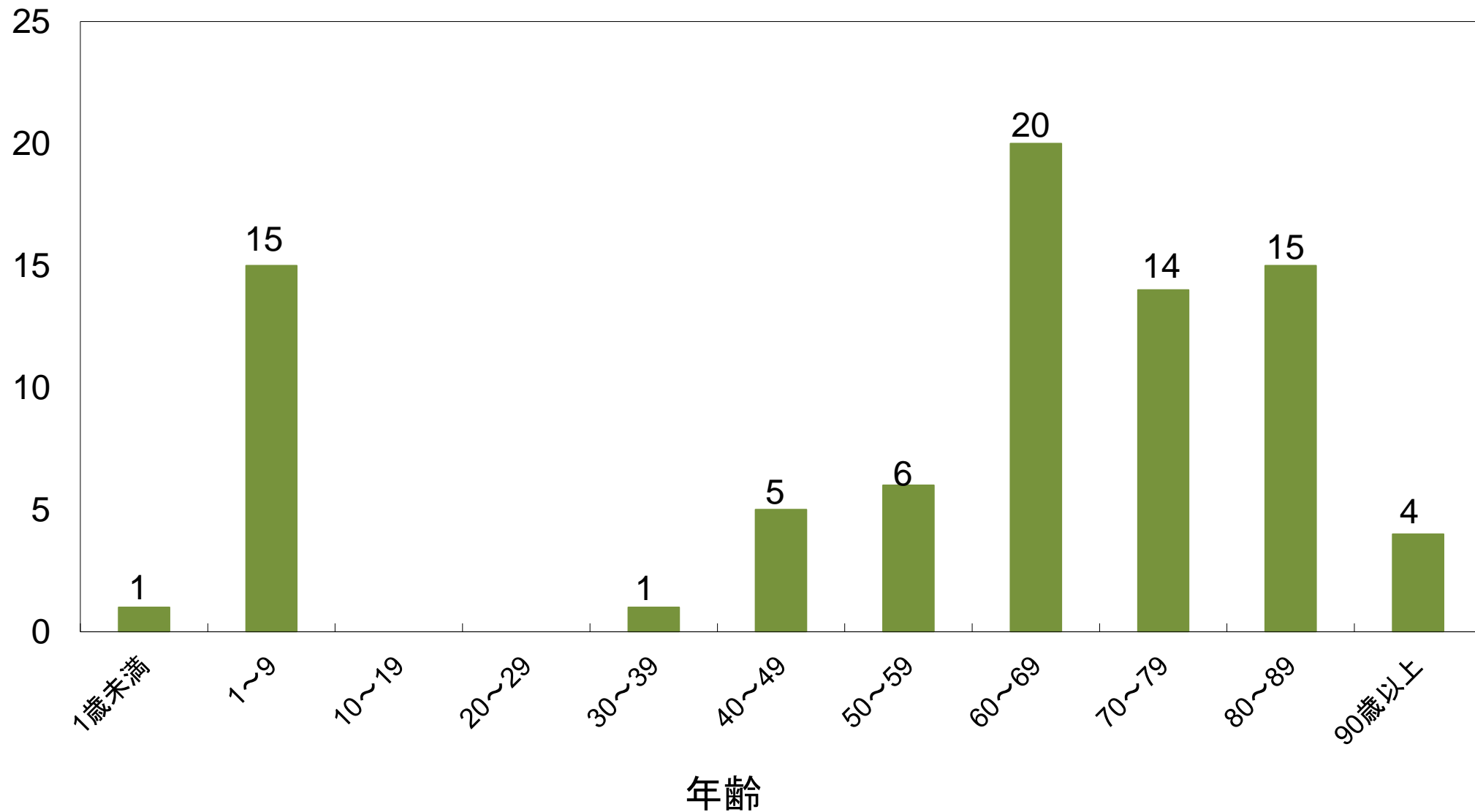
血液培養由来株について

5年間の血液培養分離数

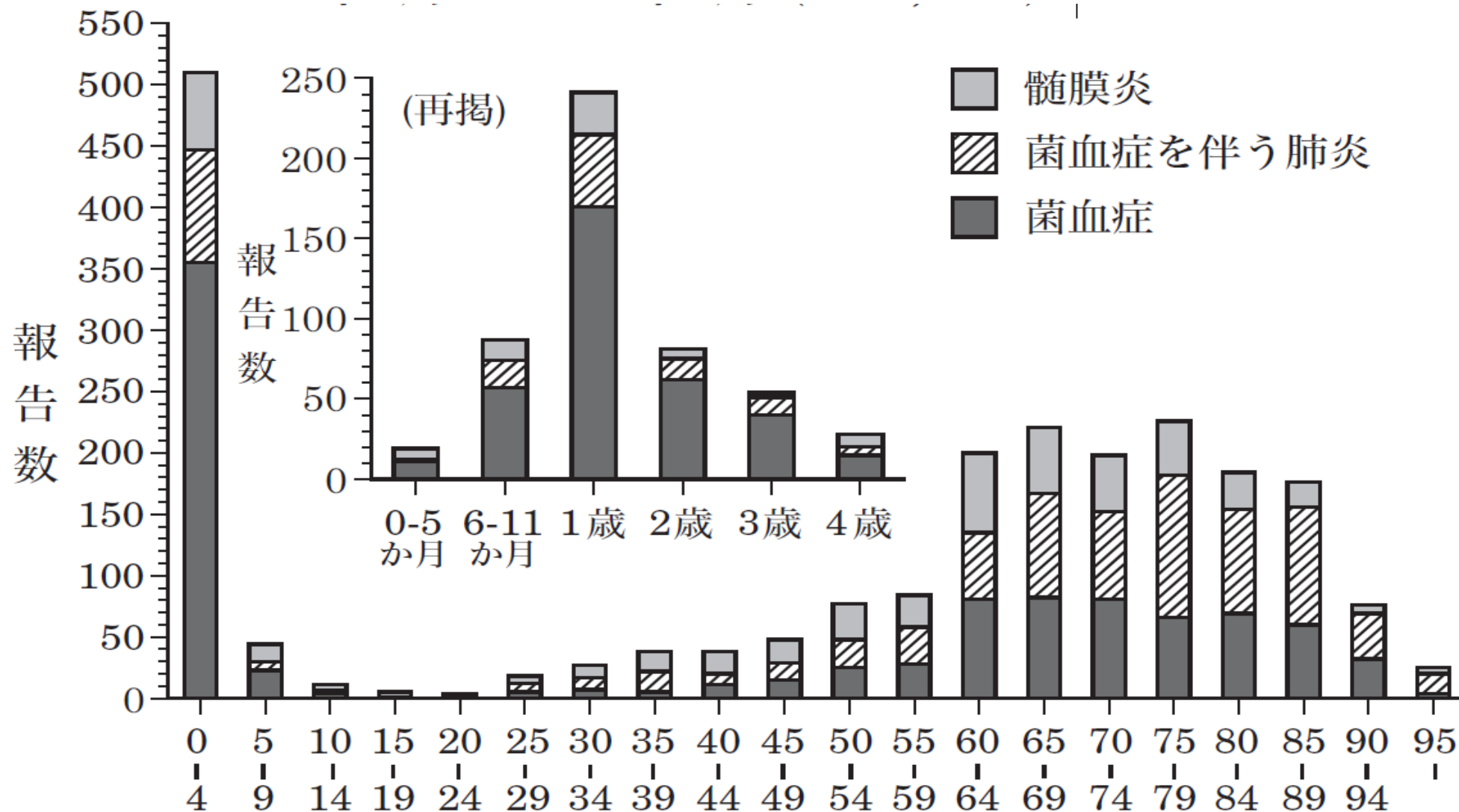


血液培養の年齢別分離数

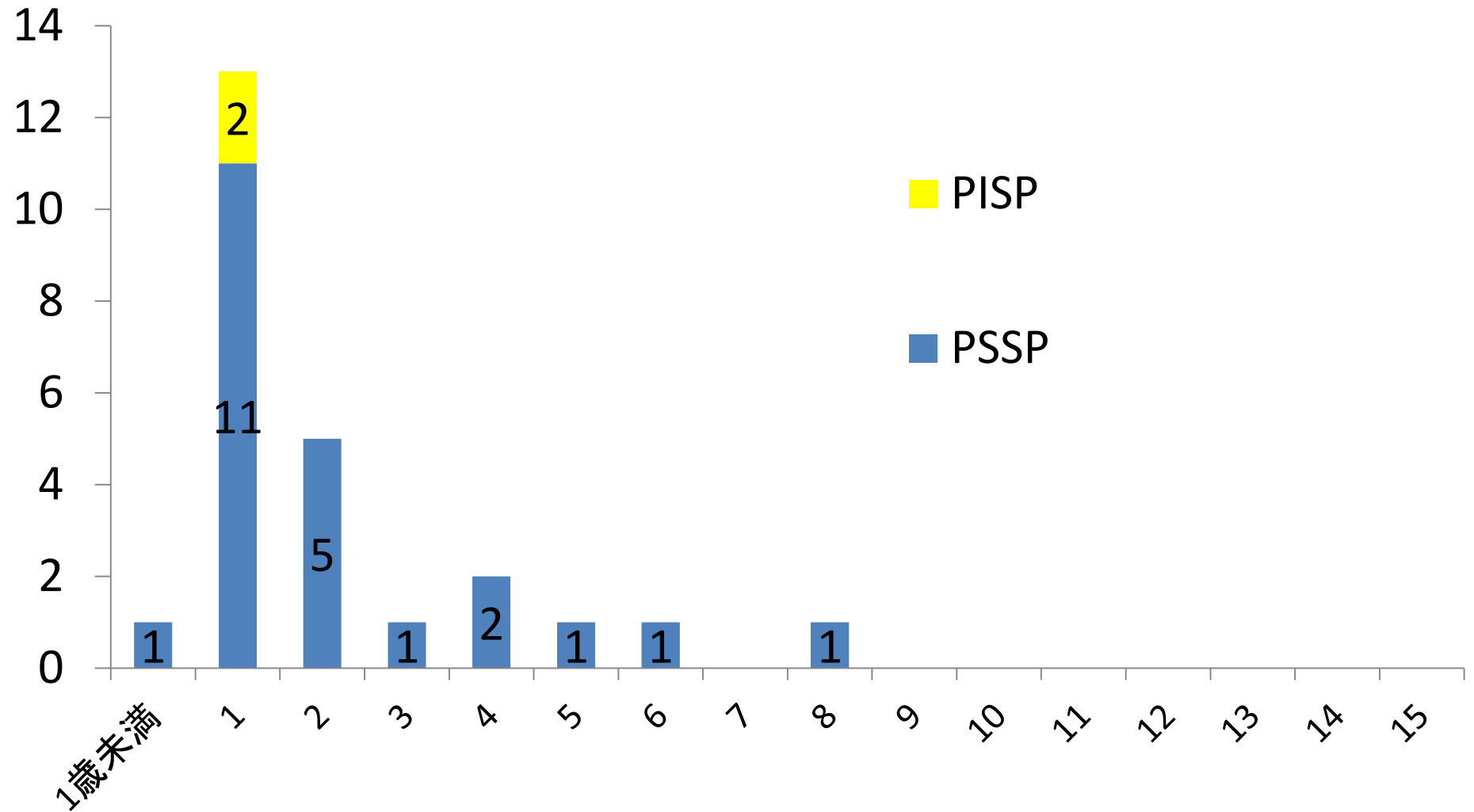
(株)



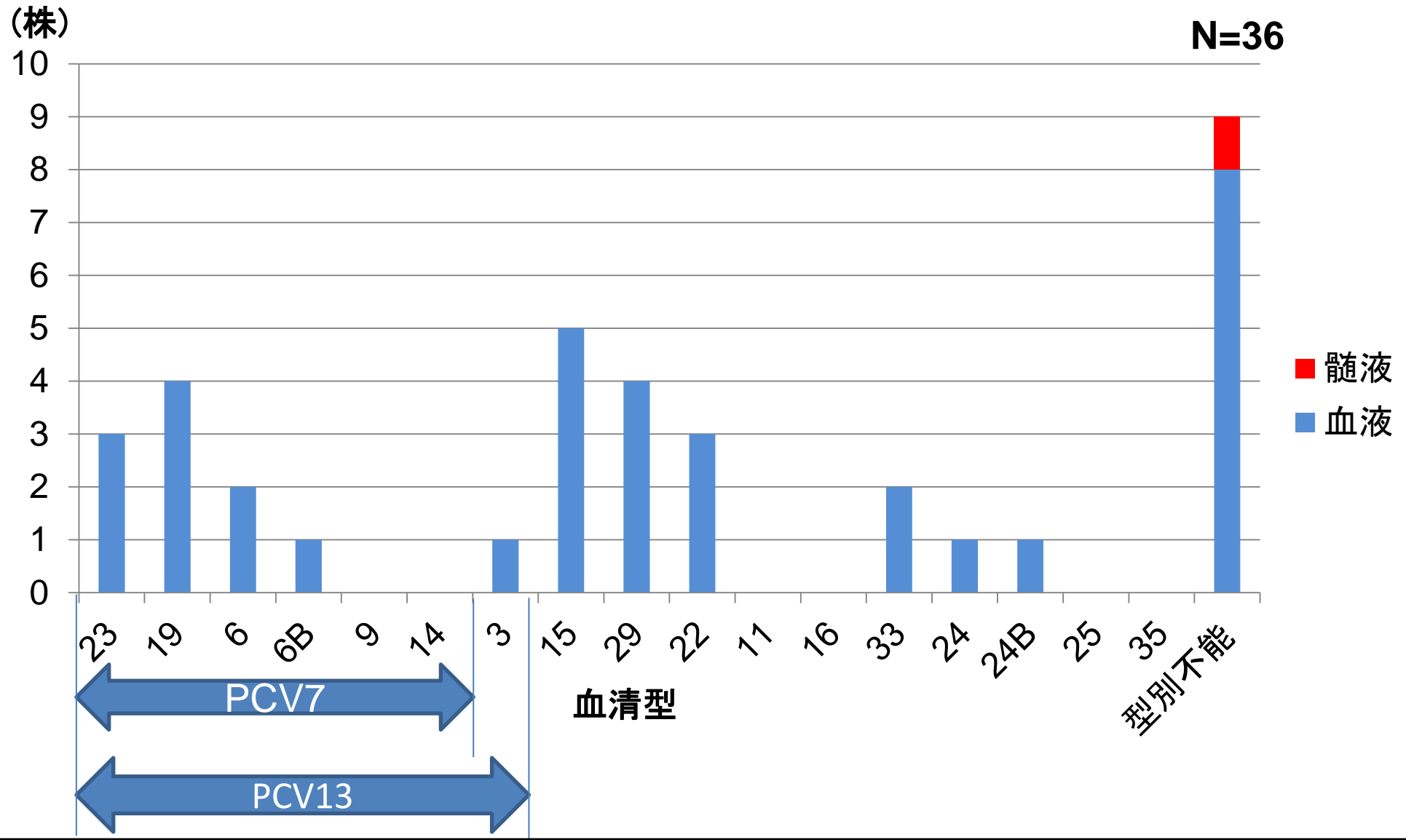
本邦における侵袭性肺炎球菌感染症患者の年齢分布 ～2013年4月～2014年8月 (N=2,210)～



小児における年齢別 血液培養の分離状況



S. pneumoniae 莢膜血清型の分布



まとめ

- 5年間における沖縄県のPSSP、PISP、PRSPの分離率は一定であった。
 - PISP、PRSPの分離率を地域別にみると中部地区が12.5%、沖縄県全体7.3%と比べ高かった。
 - 血液からの分離率が2011年6.8%から2013年3.2%で減少傾向であったが、それ以降増加傾向である。
 - JANIS(2015年)と比較してPSSP割合は4.7ポイント低かった。
 - JANIS(2015年)と比較してCTXは3.2ポイント低く、EMIは7.3ポイント高かった。一方、MEPMとLVFXはほぼ同じであった。
 - PISPおよびPRSPにおいては、PCG以外の薬剤に関しても耐性化であった。
-